

薩摩雄次 さつまゆうじ 評論家。明治二十五年十一月一日福井縣生れ（一八九七）。筆名若狭二郎。大正十一年拓殖大學卒。北一輝等と交遊、旅風社と興し代表、また團體擁護聯合會設立に盡力しその委員となる。昭和十一年（一）二六事件に連坐して検挙せられた。『國民新聞』主筆、編輯局長、衆議院議員、拓大理事を務める。

譯書に『華鴻銘論集』（編、昭和十六年六月）『大正皇國青年教育協會』（編、ヨアヒム・バルクハウゼン著、二十四の流れ）『闘争者の傳記物語』（テオドール・クレীগー著、忘れられた村）（邦本英夫共譯、上巻・昭和十八年七月）『大正皇國青年教育協會』等の他、著書『ベルマ領土と詩』（昭和十六年二月）『大正皇國青年教育協會』、『新東亞風土記叢書』（一）、『歐洲の首都柏林より』（昭和十七年一月）『大正皇國青年教育協會』等がある。

